

交流を行うために

「驚いたのは、平成9年の親善訪問事業で訪れたホームステイ先の家庭が、外出するときに家に鍵をかけなかったことです。男女差別も全く感じられなかったですし、大らかでお付き合いしやすい人ばかりですね」とデンマークについて語る上田さん。登別とデンマークの人びとの友好関係を築くため、『登別デンマーク協会』の会長として尽力しています。

同協会では、市と連携しながらデンマークの研修生を毎年1カ月間受け入れるなど、さまざまな活動に取り組んでいます。

交流事業には多くの費用がかかっていますが、上田さんは「事業費を捻出するために、会費を上げたり企業に寄付を求めたりはしたくありません」と言います。活動資金造成事業として、平成10年から毎年、『幌別地区手づくりまつり』で、デンマークのビールや家庭料理などを提供する『デンシユ・シヨップ』を、2日間出店しています。

「自分たちで汗を流して活動資金を集めることを目的に始めた事業ですが、出店以外にも準備に時間を取られるため、とても大変で



▲ファボー・ミッドフン市の訪問団22人との記念写真。同協会の会員が、それぞれのホストファミリーとなった。

すね。しかし、家族ぐるみで苦勞を共にして協力し合ってきたことにより、会員同士がより仲よくなりました」。

未来へつなげる活動を

来年、設立20周年を迎える同協会ですが、長年の活動の中で、会員の年齢層は上がってきています。上田さんは「世代交代を行うとともに、会員数を増やしていきたいですね」と話します。

同協会は、平成15年から毎年、『会員派遣事業』を行っており、派遣を希望する会員の子弟などが10日間程度、デンマークの学校教育や医療など、自分でテーマを決めて学んできます。

後進の育成にも努める同協会。その会長として、上田さんはこれからも活動を続けていきます。

きらり

KIRARI

うえ だ とし ろう

上田俊朗さん(常盤町)

登別マリンパークニクスの『ニクス城』は、友好都市であるデンマーク王国のファボー・ミッドフン市にある『イーエスコウ城』をモデルに、平成2年に建てられました。

これを契機に始まった同市と登別市との交流は、ことしで25年目を迎え、7月16日(木)には、『ファボー・ミッドフン・登別友好協会』の会員22人が登別市を訪れました。

長きにわたる交流の中心には、平成8年に設立した『登別デンマーク協会』の存在がありました。

設立から19年、多くの事業を行ってきた同協会の会長・上田俊朗さんに、交流への思いを伺いました。

『友好の絆』を大切にして、将来にわたって交流していく。



昭和19年2月29日、宮城県仙台市生まれ。71歳。コンクリート製品の製造販売などを行う市内企業に取締役会長として従事するとともに、登別商工会議所の会頭を務めるなど、さまざまな分野で活躍している。